



展示資料約70点
そのほとんどが

初公開

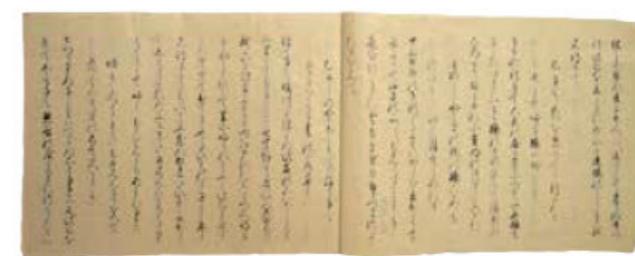
黒漆塗金蒔絵丸十紋櫃

玉里島津家で文書箱として使用されていたものです。『鹿児島県史料 玉里島津家資料』全10巻に収載された古文書の大部分は、これを含め計5点の櫃に収められていました。



ニノ丸奥日記

文久3(1863)年、慶応2(1866)年、慶応3(1867)年の日記から、「薩英戦争と大奥の女性」、「久光の生母真了院(由良)の逝去」、「隨真院(佐土原藩主9代島津忠徹夫人)の鹿児島訪問」をピックアップします。



文化二年春帰国紀行

9代藩主島津斉宣の作で、文化2(1805)年3月22日に江戸を発ち、5月11日に鹿児島へ着くまでの道中見聞記です。69首の和歌も詠まれています。斉宣の歌道への傾倒ぶりや、夜明け前に宿を発つ日が多い等旅の実態がうかがえます。薩摩藩主が残した紀行文は他に例がなく、貴重です。



もり消息

島津久光宛 (明治10(1877)年)

もりは島津久光養女で、佐土原島津家の島津忠亮に嫁ぎました。西南戦争に際し、久光が桜島へ避難したこと、「御殿」が焼失したことを見舞う手紙です。また、嫡男忠麿を出産したことに触れ、「改革」で女中が減り、乳母も置かなくなつたため、「私乳にて育て」というため忙しい旨記しています。大名家の「奥」というシステムが消えゆく様子がうかがえます。

関連イベント

□ 学芸講座「日誌等から見える玉里島津家の家政」

日 時:令和4年1月23日(日)13:30~15:00
講 師:黎明館主任学芸専門員 新福 大健
会 場:黎明館3階 講座室

□ 展示解説

- ① 1月15日(土)
- ② 2月5日(土)
- ③ 3月5日(土)

いずれも
13:30~14:10(40分程度)

※要入館料、事前申込不要

□ 学芸講座「玉里島津家資料展解説講座」

日 時:令和4年1月30日(日)13:30~15:00
講 師:黎明館学芸専門員 崎山 健文
会 場:黎明館3階 講座室

※ 学芸講座は、いずれも事前申込制です。(詳細は、ホームページまたはチラシをご確認ください。)



特集 黎明館企画展

創設150年記念

玉里島津家資料展

令和3年
12/21(火) — 3/6(日)
令和4年
会場:黎明館3階 企画展示室

玉里島津家は、幕末薩摩藩の指導者島津久光が、その功績を認められ、明治4(1871)年に新たに興した家で、のちに徳川將軍家・島津本家等に並び公爵に叙せられました。

当館が所蔵する(一部個人蔵)同家の資料は、これまで展覧会で展示されたり、『鹿児島県史料』として翻刻されたりと、様々な形で紹介されてきました。しかし、約2万5千点という資料数に比べれば、まだまだ紹介しきれていません。

玉里島津家創設150年という記念すべき年にあたり、本展では、初公開となる資料を中心に据え、雅やかな美術品・調度品、歴史を語る古文書など、同家資料のもつ魅力を様々な角度から紹介します。



頼朝富士牧狩図屏風下絵写(左隻)

担当者イチオシ資料
御屏風下絵写

文化8(1811)年の第12回朝鮮通信使の返礼品として、幕府から朝鮮国王へ贈られた屏風10双の下絵写です。全12回の通信使を通じて190双の屏風が海を渡りましたが、そのほとんどが失われているため、下絵写とはいって、本展の目玉ともいいくべき貴重な資料です。写した人物は未詳ですが、その筆運びは精緻で、幕府が威信を賭けて制作させた屏風の姿が目に浮かぶようです。

